

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

2月下旬、松本短期大学で企画された公開講座「児童虐待防止に對する取り組みを考える 最前線の現場から」を聴講する。今回のテー

マは、児童虐待。毎日繰り返して伝わってくる悲惨なニュース。だが「児童虐待防止」について、知る機会は少ない。今、現場では、痛ましい事件が再び起きないような取り組みがされているのか。そして私たち一人一人に何ができるのか考えるきっかけになればとの思いが講座への参加理由だった。

参加者に配布された松本短期大学ニュースの木内義勝学長のインタビューで語られた教育方針が強く心を打つ。「顔と顔がしっかり見合っって話をする人間関係が、今ではスマ

ホや携帯を道具に社会的ネットワークを通じ形成される人間関係となる社会動向」に、大学では、敢えて人間と、じかに接する人を育てる事を目的とし、その為には、人間が本

講座では、松本短期大学幼児保育学科の山城久弥助教が、2018年の東京都目黒区のアパートの一室におむつ姿で倒れていた当時5歳の船戸結愛ちゃん

行為をさせる「性的虐待」、児童に対する著しい暴言又は拒絶的対応、児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力その他の児童に著しい心理的外傷を与える言動「心理的虐

児童虐待防止に対する取り組みを知る事は大人としてどうあるべきかをいかけ

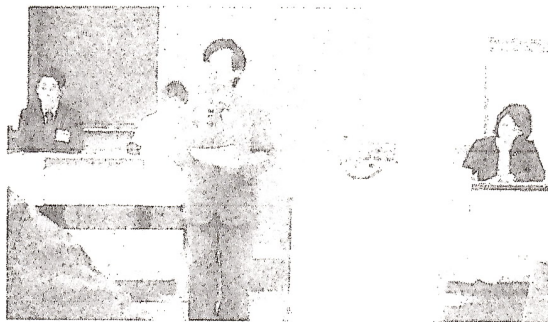
来的に持っている眼耳鼻舌身の五管の開花を目指し、豊かな人間関係を築ける人を育てる。この学舎で学んだ皆さんの取り組みが、子供たちの生きる力を育むのだからと期待をす

の虐待死の概要を報告。児童虐待には、身体に外傷が生じ、または生じる恐れのある暴行を加える「身体的虐待」、児童にわいせつな行為をすること、または児童にわいせつな

待、児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は長時間の放置、保護者以外の同居人による保護者の虐待行為の放置、その他、保護者としての監視を著しく怠る「ネ

グレスト(養育放棄)を具体的例で説明。虐待の問題の深刻さを学ぶことができた。松本児童相談所の児童福祉司や松本市子ども福祉課の家庭児童福祉司からも現場の取組

する親の教育が、根本的な問題なのだろうかと考えてしまった講座でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



保育・医療・福祉分野で地域貢献を目的に開催された公開講座に大勢の皆さんが参加

みが報告されるが、個々の事例が複雑で、現場の大変さも感じてしまう。問題が起されば、現場担当職員への非難中傷が大きく報道されるが、子供を養育